

疾患	甲状腺機能亢進症		甲状腺機能低下症
自覚症状	暑さに弱い・多汗・下痢・不眠・体重減少・そう状態 食欲が異常にある(やせて大食い)・手の震え 眼球突出・動悸・易疲労感・脱力感・首の腫大・皮膚の痒み		寒がり・発汗減少・便秘・眠気・体重増加・うつ・無気力・喉の違和感・声のかすれ・毛髪が抜けやすい・鼻閉・肌の乾燥・不妊・脱毛・むくみ・易疲労感・筋力低下
他覚症状	頻脈心房細動)・微熱・骨粗鬆症 高血圧・高血糖・周期性四肢麻痺	甲状腺腫 (咳・声がれ・嚥下困難・呼吸困難)	徐脈・貧血・体温低下・ミオパチー・眉毛外側の脱毛・喘息の悪化
原因	①バセドウ病：原因として1番多く、甲状腺刺激ホルモン受容体に対する自己免疫性疾患である。		①慢性甲状腺炎(橋本病)：原因として1番多く、自己免疫疾患が甲状腺を徐々に破壊して機能が低下します。
	②甲状腺炎(亜急性や無痛性)：ウイルスや自己免疫により甲状腺に炎症が生じて濾胞が破れ、一次的に甲状腺機能亢進を発症します。その後、一過性に低下します。		
	③ホルモン産生腫瘍(ホルモンを過剰分泌する腫瘍のこと)		③視床下部・下垂体ホルモン機能低下症 ※TSHの産生低下
	プランマー病・多結節性甲状腺種 ※TSH産生下垂体腫瘍		④甲状腺ホルモン不応症 ⑤先天性(クンチン病)
	④薬や甲状腺ホルモン剤		⑥甲状腺切除手術後や放射性ヨード治療後 ⑦薬やヨウ素
診断	抗TSH受容体抗体(TRAb・Tb II) 刺激抗体(TSAb)	甲状腺ホルモン(T3・T4) ※甲状腺刺激ホルモン(TSH)	抗甲状腺マイクロゾーム(TPO)抗体 抗サイログロブリン抗体
治療	①～④頻脈に対してβ遮断薬・心房細動に対して抗血栓療法		①③⑤⑥甲状腺ホルモン製剤投与
	①甲状腺薬・放射線ヨード治療・切除		②経過観察 ③原因除去：腫瘍切除・薬物中止
	②ステロイド ③切除 ④内服中止		⑦原因の食べ物や薬剤の中止